



三瀦コラム 中国「津津有味」-36

天津自由貿易試験区はさらに金融関係の様々な制度の革新（個人による内外市場への投資、譲渡性預金など）や金融市場の開放、ファイナンスリース業の発展も重要テーマとして掲げました。

習近平が最も長く在任した地域であり、最近では現政権の政治・軍事の中枢にも多数の人材を腹心として供給し、習近平政権を支えている福建省における自由貿易試験区の設置は当初からその手厚い配慮が注目を浴びました。

台湾海峡をはさんだ経済交流基地という海峡西岸経済圏としての重要性だけではなく、一帯一路の一翼を担う海のシルクロードの出発点としての役割も付与された福建自由貿易試験区は、北から順に福州・平潭・廈門という3つのエリアで構成されてスタートしました。

もともと福建省はリアス式海岸が入り組み、しかも各半島の先端まで険しい山が迫り、各湾が隔絶され、その結果、それぞれに異なった方言が発達し、言語学者にとっては研究の宝庫にもなっていますが、その長大な海岸線を三つに分割した北部・中部・南部の中心地が福州・泉州・廈門です。

北部地区中心地であり、福建省の省都でもある福州は、現在では高速鉄道で江西省の南昌から更に湖北省の武漢へとつながるルートと、江西省の上饒から上海方面につながるルートを持ち、東では台湾とのルートがしっかりつながることで、台湾資本を内陸部や華東地区へ呼び込む大動脈ができ、中台交流の発展に大きく寄与してきました。

平潭島は、北から2番目と言っても、緯度的には福州とほとんど変わらない沖合の大きな島です。ここを自由貿易試験区の一つの地域にしたのは、対外交流基地としての役割はもとより、観光リゾートとしての発展も期待されたのです。廈門は兩岸の先端製造業やサービス業の協力モデル地域としての役割と、海のシルクロードに連なる各国との連携を進める場の提供が期待されました。

設置決定後、福建省には投資・貿易・金融・法治保障・市場監督管理という5つの専門作業グループが設置され、2015年3月までにそれぞれのエリアに管理委員会が誕生し、実施の具体策を策定しました。兩岸の金融貿易センターとしての役割を担う廈門では、投資管理、貿易の利便化、金融、サービス業開放という5領域の改革の試み35項目が立案され、ファイナンスリース、コールドチェーン物流、兩岸Eコマース、兩岸人民元使用拡大、水運物流センターなどの開発が進められました。平潭エリアでは台湾免税商品市場の育成が一層進み、台湾本島への直行航路を開発することで、台湾との一日生活圏の構築も図られました。

広東自由貿易試験区は前海蛇口・南沙・横琴の三エリアで構成され、香港・深圳・前海・広州南沙・珠海・澳門・横琴という巨大なA字型地域内で協力モデルを形成するとともに、福建同様、海のシルクロードの重要拠点としての役割が期待されました。特に前海は2014年に習近平が総書記就任早々訪れた重要地区で、金融対外開放に関する全国的先端モデル地区でもあり、また、横琴島にはマカオの今後の発展をリードする大事な役割が課せられました。

こうした動きはその後、全国的な広がりを見せ始めました。続きはまた次回に。